



『デジタル北斎』と 地域芸術の可能性

19世紀の内外の芸術に多大な影響を与えた葛飾北斎の浮世絵版画。
デジタル化技術によって鮮やかさを増した作品群が、様々な地域の魅力を今に伝えています。
本シンポジウムでは、北斎の魅力・地域の魅力を繋ぐ ICT 技術と、「地域芸術」の可能性をお伝えします。

- 開催日時 2021年10月2日(土)
- スケジュール *Zoom ウェビナーによる開催、入退出自由
 - 14:00 挨拶: 慶應義塾大学大学院 SDM 研究科 谷口尚子
 - 14:05 講演: 慶應義塾大学文学部・大学院文学研究科 内藤正人
「江戸の名所絵 幕末期版画の機能」
 - 15:00 講演: NTT 東日本・NTT Art Technology
「地域芸術の保存と活用: Digital×北斎を例として」
 - 15:30 講演: 慶應義塾大学大学院 SDM 研究科 宇治田里与
「『富嶽三十六景』を通じて知る神奈川各地の魅力」
- 質疑 16:00終了予定



内藤正人教授プロフィール

1963年、愛知県生まれ。慶應義塾大学大学院修了(美学美術史学)、博士(美学)。出光美術館主任学芸員を経て、慶應義塾大学文学部教授、同大学アート・センター所長。専門は江戸時代の絵画史、版画史。『筆魂 一線の引力・色の魔力』『くらべてわかる 北斎 vs 広重』『北斎への招待』等多数。

- 参加方法 参加無料。9月30日(木)までにSDM研究科のイベントカレンダーからお申込み下さい。
登録いただいたメールアドレスに、前日までにZoomのURLをお送りします。
<http://www.sdm.keio.ac.jp/calendar.html>

- お問合わせ Email: sdm@info.keio.ac.jp